

平成25年(ワ)第1356号 九州朝高生就学支援金差別国家賠償請求事件

原告 甲ほか

被告 国

## 意見陳述書

2017年(平成29年)5月25日

福岡地方裁判所小倉支部第3民事部 御中

原告番号 42

### 1 はじめに

日本政府が高校無償化制度を実施して、7年の月日が経ちました。今も、朝鮮高校だけが、その対象から除外されています。

私は、この訴訟の最初の期日でも意見陳述をしました。当時、私は在校生でしたが、今は朝鮮学校の教員になっています。

### 2 学生時代の署名活動など

私は学生生活を通して、ウリハッキョ、朝鮮高校を高校無償化制度から除外する日本政府に、その不当性を訴えてきました。

暑い日も寒い日も、たとえ雨が降る中でも、私たちは大切な学校のために、街頭演説や署名活動をし、この問題を理解する日本の方々と集会も行いました。

普段は授業が終わった後、部活をしていましたが、署名活動などをする日には、授業が終わると駅や街中などに行き、帰宅ラッシュの人たちに話をしたり、署名をお願いしたりしていました。多いときには2週間に1回ほど行っていました。

署名をお願いすると、一見関心のなさそうな学生が何人も書いてくれたり、熱心に質問されて私の方が答えきれなかったりすることもありました。

雨の日は、自分が濡れても書いてくれる人は濡らさないよう、傘を差し出し、真夏には汗だくになりながら、街頭に立ち続けました。私たちは朝鮮学校で自分たちの民族について学んでいること、日本の他の高校生と同じように勉強していることを繰り返し訴えてきました。

しかし、私たちの声はいまだ政府に届いていません。

### 3 学校生活

署名活動などがないときには、朝7時30分に家を出て学校に行き、学校で授業を受けた後、部活でバスケットボールをして、夜8時30分頃に帰宅していました。その後、食事をして勉強をし、また翌日は学校に行っていました。

他の高校生と何も変わらない生活です。

学校生活の基本が朝鮮語であるところ、朝鮮語や、朝鮮地理、朝鮮歴史の授業があるところは、他の高校と少し違うところです。でも、日本学校で日本語を使い、日本の地理や歴史を学ぶことと同じです。

そして、学生たちの勉学に打ち込む姿勢や、部活をしたり、仲の良い友達と笑って喋ったりする学校での様子は、朝鮮学校に通わない学生たちと何ら変わりはありません。

学生たちの学びたいという気持ちにも、差はありません。まして、その気持ちがないがしろにし、学ぶ権利を奪うことなど誰にも許されていません。学ぶ権利は皆に平等にあるということは、世界共通の認識です。

それなのに私たちはなぜ高校無償化の対象外になったのでしょうか。それは、差別と偏見に基づくものです。

### 4 差別の不当性

私たちは、日本国に住む一国民としての義務、例えば税金を払うなどの義務を果たしています。学生の親たちも十二分にその義務を果たしているはずです。それな

のに、国の都合の良い時には日本人として扱われ、都合の悪いときには朝鮮人として扱われます。この事実を黙って見過ごすことは私には到底できません。

そもそも私たちが朝鮮学校で学んでいることは、日本国に害をなすことではありません。自分の国の言葉や文化、歴史を習って何がいけないのですか？

自国に誇りを持ち、朝鮮民族の一員として堂々と生きることが、なぜ否定されなければならないのでしょうか。朝鮮が日本の植民地であったあの頃とは違うのです。

私たちの祖先は、代々大切にしてきた土地を日本の植民地にされました。名前を変えられ、母国語を禁止され、貧しい生活を強いられました。それでも、自分たちが朝鮮人であるという心、誇りを奪うことはできませんでした。私たちの祖先が、再び自由に、堂々と、朝鮮人として生きることを諦めなかったからこそ、今私たちは民族の心を引き継ぎながら、自分の民族の言葉、歴史、文化の中で、誇りを持って生きているのです。

だからこそ私たちは、朝鮮学校で学び、私たちの言葉、歴史、文化、そして誇りを、未来の世代にも引き継ごうとしているのです。

朝鮮学校を「無償化適用の要件を充たさない」と決めつけ、根拠規定自体もなくしてしまうことは、国際問題と関連付けて、朝鮮学校に偏見の目を向け、差別することにほかなりません。そのようなことが許されるのでしょうか。

## 5 朝鮮学校について思うこと

たとえば朝鮮語を学ぶことは、家庭でもできます。ですが、学校という場で、家族以外の人と関係を築くことで、友人ができ、目上の人との接し方を学び、敬う気持ちを育てることができます。学校で学ぶことで、知識を知るだけでなく教養を深めることができ、自分たちの民族や歴史について深く知ることができました。その中で他者や自分について考えることで、家族以外の人にも自分のできることをしてあげたいと思う気持ちなども、自然に育ってきたように思います。

行事のときには誰の子どもも関係なくみんなで行事に参加して楽しみ、最後まで

楽しもう、と必ず片づけまで協力しています。学校があることで、親同士もつながることができます。

今、教員として幼い子どもたちを見ていると、いつの間に学んだのかと驚くほど、次から次に朝鮮語を喋ります。学校で手取り足取り教わるというよりも、自立して自ら学ぶ姿に、これこそ朝鮮学校ならではの教育だと感じています。

そんな子どもたちに、国際問題についての責任があるはずがありません。

朝鮮高校に通う子どもたちも、他の高校生と何ら変わらない、無償化制度の下で学ぶべき子どもたちだということを知ってください。それが分かれば、今回の問題で下されるべき判断は明らかであると思います。

以上で意見陳述を終わります。

以上